

## 執筆者紹介 (50音順)

天野 優 (あまの ゆう)

1989年生まれ。同志社大学大学院神学研究科博士後期課程。アラブ諸国、特にイラク出身のユダヤ人と彼らのアラビア語／ヘブライ語を用いた執筆活動に関心がある。論稿に「イラク系ユダヤ人作家から見たファルフード」(『ユダヤ・イスラエル研究』32号、2018年)など。

石井啓一郎 (いしい けいいちろう)

1963年生まれ。翻訳家・独立研究者。上智大学外国語学部イスパニア語学科卒業。ペルシア語／トルコ・アゼルバイジャン語現代文学。三菱電機株式会社勤務。訳書にS・ヘダーヤト『生埋め』(国書刊行会、2001年)、『サーデグ・ヘダーヤト短篇集』(慧文社、2007年)、N・ヒクメット『フェルハドとシリム』(慧文社、2002年)。論稿に「南コーカサスからのスケッチーアゼルバイジャン文学への誘い」(中東現代文学研究会編『中東現代文学リブレット 1 シンポジウム「トルコ文学越境」』2017年)ほか。研究協力者。

石川清子 (いしかわ きよこ)

ニューヨーク市立大学大学院(フランス語フランス文学科)博士課程修了(Ph.D)。現代フランス文学、北アフリカ仏語文学。静岡文化芸術大学文化政策学部教授。著書に*Lire Assia Djébar!*(La Cheminante、2012年、共著)、*Traduire Assia Djébar*(SEDIA、2018年、共著)ほか。訳書に、アジア・ジェバル『愛、ファンタジア』(みすず書房、2011年)、ヤミナ・ベンギギ『移民の記憶』(水声社、2019年)ほか。研究分担者。

磯部加代子 (いそべ かよこ)

1973年生まれ。湘南国際女子短期大学卒。トルコ語クルド文学翻訳者、トルコ語通訳(フリーランス)。著書に『旅の指さし会話帳 18 トルコ』(情報センター出版局、2006年)、『クルド人を知るための55章』(共著、明石書店、2019年)訳書に、ムラトハン・ムンガン編『あるデルスィムの物語 ～クルド文学短編集～』(さわらび舎、2017年)ほか。研究協力者。

鵜戸 聡 (うど さとし)

1981年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程修了。博士(学術)。アラブ＝ペルベル文学。鹿児島大学法文学部准教授。最近の論考に「「アルジェリア人」とは誰か？」(庄司宏子編『国民国家と文学』、作品社、近刊予定)、「アラブ演劇の(非)流通から〈世界文学〉を踏み外す」(稲賀繁美編『海賊史観からみた世界史の再構築』、思文閣出版、2017年)。訳書にカメル・ダーウド『もう一つの「異邦人」』(水声社、2019年)。研究分担者。

岡 真理 (おか まり)

1960年生まれ。東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了。現代アラブ文学/パレスチナ問題。京都大学大学院人間・環境学研究科教授。著書に『アラブ 祈りとしての文学』(みすず書房、2008年)、『ガザに地下鉄が走る日』(みすず書房、2018年)、『世界文学への招待』(共著、放送大学教育振興会、2016年)ほか。翻訳に、ターハル・ベン＝ジェルーン『火によって』(以文社、2012年)ほか。研究代表者。

岡崎弘樹（おかざき ひろき）

1975 年生まれ。パリ第 3 大学アラブ研究科博士課程修了。博士（社会学）。アラブ近代政治思想/現代シリア文化研究。日本学術振興会 PD、中部大学および京都大学非常勤講師。論文に“La remise en question des Caractéristiques du despotisme d'al-Kawākibī -Entre influence occidentale et vision arabe-”（『中東学会年報』Vol.33-2、2018 年）、「シリアの記録映画に描かれる〈崩壊〉の経験－記憶、表象、他者をめぐる創造空間」（『唯物論研究年誌』第 23 号、2018 年）など。研究協力者。

小野田風子（おのだ ふうこ）

1991 年生まれ。大阪大学大学院博士課程言語文化研究科修了。博士（言語文化学）。現代スワヒリ語文学。2019 年 4 月より日本学術振興会特別研究員 PD（京都大学大学院人間・環境学研究科）。論文に「スワヒリ語詩の変容と展開一定型詩、ターラブ、自由詩－」（アフリカ文学研究会『MWENGE』第 43 号、2016 年）、「「自伝的作家」としてみるユーフレイズ・ケジラハビの初期作品－その自嘲性に注目して－」（大阪大学言語社会学会『Ex Oriente』Vol.24、2017 年）ほか。

栗原俊秀（くりはら としひで）

1983 年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程研究指導認定退学。イタリア・ルネサンス文学／移民文学。翻訳家。論文に、「回帰する移民の歴史：文学作品が描くイタリアと移民」（『立命館言語文化研究』第 29 巻 1 号、2017 年）ほか。訳書に、アマーラ・ラクス『ヴィットーリオ広場のエレベーターをめぐる文明の衝突』（未知谷、2012 年）、カルミネ・アバーテ『偉大なる時のモザイク』（未知谷、2016 年）、ジョン・ファンテ『満ちみてる生』（未知谷、2016 年）ほか。研究協力者。

佐藤 愛（さとう まな）

1990 年生まれ。京都大学人間・環境学研究科修士課程修了。パレスチナ人を中心とした難民・移民による英語文学に関心がある。「在米ディアスポラ詩人スヘイル・ハンマードにおける『パレスチナ』——記憶の継承、ブラック・アメリカ、そしてパレスチナ人になること」（修士論文、2018 年）、「未来のパレスチナ——在米ディアスポラ詩人スヘイル・ハンマードにおける 'home' と 'people'」（『日本中東学会年報』第 34-2 号、2018 年）。

鈴木克己（すずき かつみ）

1964 年生まれ。中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。現代ドイツ文学。東京慈恵会医科大学医学部医学科教授。著書に『追悼 越部暹先生 ドイツ演劇・文学研究』（共著、興栄印刷、2018 年）、『知っておきたいドイツ文学』（共著、明治書院、2011 年）、『聖書を彩る女性たち』（共著、毎日新聞社、2002 年）ほか。研究協力者。

鈴木珠里（すずき しゅり）

1968 年生まれ。東京外国語大学大学院地域文化研究科博士課程前期修了。現代イラン文学。中央大学総合政策学部他非常勤講師。論文に「フォルグ・ファッロフザードの空間イメージについての一考察」（『イラン研究万華鏡』、大東文化大学東洋研究所、2016 年）ほか。訳書に、『現代イラン詩集』（共訳、土曜美術出版販売、2009 年）、ジャーレ『古鏡の沈黙』（共訳、未知谷、2012 年）。研究協力者。

竹田敏之（たけだ としゆき）

1976年生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。博士（地域研究）。アラビア語学／現代アラブ文化論（モーリタニア・湾岸諸国）。同研究科特任准教授。著書に『ニューエクスプレス アラビア語』（白水社、2010年）、『アラビア語表現とことんトレーニング』（白水社、2013年）、論文に「現代モーリタニアにおけるアラブ・イスラーム文化の諸相」（『イスラーム世界研究』第7号、2014年）など。研究協力者。

田浪垂央江（たなみ あおえ）

1970年生まれ。一橋大学言語社会研究科博士課程単位取得退学。中東地域研究・パレスチナ文化研究。広島市立大学国際学部准教授。著書『〈不在者〉たちのイスラエル 占領文化とパレスチナ』（インパクト出版会、2008年）、『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』（共著、明石書店、2016年）、論文「イギリス委任統治下のパレスチナにおけるスカウト運動」（『広島市立大学国際学部叢書』、2018年）ほか。研究分担者。

中村菜穂（なかむら なほ）

1981年生まれ。東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程満期退学。現代イラン文学。大東文化大学非常勤講師。著書に『イランとイスラーム——文化と伝統を知る』（共著、春風社、2010年）、『イラン研究万華鏡』（共編著、大東文化大学東洋研究所、2016年）、訳書に『現代イラン詩集』（共訳、土曜美術社出版販売、2009年）、ジャーレ『古鏡の沈黙』（共訳、未知谷、2012年）ほか。研究協力者。

福田義昭（ふくだ よしあき）

1969年生まれ。大阪外国語大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了。博士（言語文化学）。アラビア語・アラブ文学。大阪大学大学院言語文化研究科准教授。論文に「昭和期の日本文学における在日ムスリムの表象（1）～（3）」（『アジア文化研究所研究年報』、2016～18年）、訳書にダン・コンシャール／ダウド・アラミー『双方の視点から描くパレスチナ／イスラエル紛争史』（共訳、岩波書店、2011年）など。研究分担者。

藤元優子（ふじもと ゆうこ）

1957年生まれ。大阪外国語大学大学院外国語学研究所修士課程修了。現代イラン文学。大阪大学大学院言語文化研究科教授。主な著書に『CD エクスプレス ベルシア語』（白水社、2003年）、『イランとイスラーム——文化と伝統を知る——』（共著、春風社、2010年）、訳書に『天空の家——イラン女性作家選——』（段々社、2014年）。研究分担者。

細田和江（ほそだ かずえ）

1974年生まれ。中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程修了。博士（学術）。現代イスラエル文学／パレスチナ・イスラエル地域研究。大学共同利用機関法人人間文化研究機構人間文化研究推進センター研究員、東京大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任助教。論文に「ヘブライ文学からイスラエル文学への系譜：イスラエルのアラブ圏出身作家とパレスチナ・アラブ人作家による新たな潮流」（『イスラエル・ユダヤ研究』、2016年）、「イスラエルにおける少数派の文学言語：アラブ人作家アントン・シャンマースとサイイド・カシューアのヘブライ語選択」（『中央大学政策文化総合研究所年報』、2016年）ほか。研究協力者。

前田君江（まえだ きみえ）

1972年生。東京外国語大学大学院地域文化研究科博士課程修了。博士(学術)。現代イラン詩、絵本研究、国際理解教育研究。東京大学教養学部非常勤講師。ペルシア語翻訳者・絵本翻訳者。共著・共訳書に『イランを知るための65章』（共著、明石書店、2004年）、『現代イラン詩集』（共訳、土曜美術社出版販売、2009年）。英語絵本の翻訳として『ラマダンのお月さま』（解放出版社、2016年）、『イードのおくりもの』（光村教育図書、2017）、『石たちの声がきこえる』（新日本出版社、2018年）。研究協力者。

宮下 遼（みやした りょう）

1981年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程修了。博士(学術)。トルコ文学。大阪大学大学院言語文化研究科准教授。著書に『多元性の都市イスタンブール：近世オスマン帝都の詩人、庶民、異邦人』（大阪大学出版会、2018年）、『無名亭の夜』（講談社、2015年）。訳書にオルハン・パムク『私の名は赤』（2012年）、『無垢の博物館』（2010年）、『僕の違和感』（2016年、以上早川書房）、ラティフェ・テキン『ゴミの丘のおとぎ噺』（河出書房新社、2014年）ほか。研究分担者。

山本 薫（やまもと かおる）

1968年生まれ。東京外国語大学地域文化研究科博士後期課程修了。博士(文学)。アラブ文学。2019年4月より慶応義塾大学総合政策学部専任講師。著書に『パレスチナを知るための60章』（共著、明石書店、2016年）、『「アラブ大変動」を読む：民衆革命のゆくえ』（共著、東京外国語大学出版会、2011年）など。訳書にエミール・ハビービー『悲楽観屋サイドの失踪にまつわる奇妙な出来事』（作品社、2006年）。研究分担者。

---

## ワタン（祖国）とは何か 中東現代文学における Watan/Homeland 表象

「現代中東の「ワタン（祖国）」的心性をめぐる表象文化の発展的研究」成果報告書

発行日 2019年3月31日  
刊行責任者 JPSP 科学研究費補助金基盤研究(B)「現代中東の「ワタン（祖国）」的心性をめぐる表象文化の発展的研究」(JP15H03136)  
研究代表 岡 真理  
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学大学院 人間・環境学研究所  
TEL/FAX: 075-753-6641 (研究室)  
編集 岡 真理  
装丁・編集協力 松村紗恵・呉 玲奈 (プラメイク)  
〒604-087 京都市中京区車屋町通丸太町下ル田丸産業ビル 5F TEL: 075-256-3481  
印刷 株式会社コムラ  
〒501-2517 岐阜県岐阜市三輪ぶりとびあ3 TEL: 058-229-5858

---